



横浜グレースバイブルチャーチ主任牧師
スコット・ダウマ師

「約束を手に入れる」

2009年度3学期 卒業式メッセージ

■私が牧会している教会は横浜にあります。この横浜に「関内」という名の駅があります。なぜ「関内」かというと、幕府が外国人の入国を許した時、その外国人たち、特に宣教師たちに「関内」にいるようにと言いました。すなわち特別の許可がない限り「関内」から出られないということでした。当時の宣教師達が何年、あるいは何十年間その小さな「関内」で聖書を訳したりして働いても、人々は救われませんでした。しかしだからと言って私たちは彼らを責めることはできません。彼らは旅行が困難な時代に、何週間、何ヶ月もかけて日本まで来ました。生活も現代と違って大変な時代でした。一生懸命働きながらも、関内から関外へ行くことはできませんでした。私は彼らのことを思うと時々涙が出てきます。英語の表現で、“We are standing on their shoulders.”と言いますが、私たちは彼らの肩の上に乗っているということを忘れてはいけません。

■私は今50代です。これからもどんどん前進していこうと思っていますが、年をとるにつれて、次の世代のことや前の世代のことをよく考えるようになってきました。今日はそのテーマについて話していきます。「約束を手に入れる」ということです。主の約束を絶対受ける、神様が約束されたことを私たちは絶対受けられるということを考えていきましょう。では、ヘブル11章13節の御言葉を読みましょう。

「これらの人々はみな、信仰の人々として死にました。約束のものを手に入れることはありませんでしたが、はるかにそれを見て喜び迎え、地上では旅人であり寄留者であることを告白していたのです。」(ヘブル11:13)

■クリスチャンはたくさん約束をいただきます。二人三人集まって、イエス様のお名前によって祈るとなんでも与えられます。信仰をもって祈ると主が働かれます。デボーションをしていると、目に飛び込んでくる御言葉がありますね。主は約束やビジョン、幻を様々な方法で示されます。問題は、約束をいただいた時からその約束が成就する間です。その間が私たちの人生です。そこには信仰が必要です。希望が必要です。人生の中には冬も春も夏も秋もあります。良い時、大変な時があることをよく理解し、その約束を持ちながら長い道のりを歩むことがあります。それでは、この御言葉から4つのポイントを見ていきましょう。約束された方は忠実です。それを忘れてはいけません。こうなったらいいなあという淡い願いではなく、天と地を造られた神様がおっしゃったのです。できないことは何一つない全能の神が言われたのだから成就するのです。自分達が積極的にがんばるのではなく、神様が成し遂げてくださるので安心しましょう！

1. 約束のものを見る

■1番目は、「約束を見る」です。私たちはもっともっと想像力を働かせなくてはなりません。私は以前、新宿で働いていました。そして人通りの多い新宿駅の西口に立ち、こう想像しました。「この人たちはみんなクリスチャンになるんだ!」「この人たちは今どこかの集会に向かっている!」そのような思いをもって週何回もそこに立って祈りました。大きなビジョンを持っていたからです。私たちのフィリピンの教会では、年に一回くらい3万人のメンバー全員が一つの場所に集まります。みなさん、日本もそのようになるとビジョンを持ちましょう!20人教会ではなく、百人、千人単位の教会が何百何千と日本に建つという大きなビジョンを持ちましょう! アブラハムは天の星、砂の数ほどの子孫を与えると語られました。そしてアブラハムはその約束を見続けました。みなさん、ビジョンは大切です。主はあなたにどんな約束を与えられたか忘れてないでいてください。

2. 確信をもつ

■次に、彼らは約束を確信し、自信を持つようになりました。エサウは長男の権利をもらうというすばらしい主の約束が与えられていたのに、それよりも食べ物を探求しました。私たちには決断力が必要です。この約束を信じるか信じないかを選び取る決断が必要です。ある人はすばらしい預言を受けて素直に「信じます」と応答します。ある人は同じように言われても、「本当かな」と疑います。みなさん、信じ続けましょう。それは決断の連続です。私たちが主の約束を受けるか断るか、それは私たち次第です。神様の約束は絶対成ります。時には感情がまったく伴わないこともあるでしょう。私が開拓して間もないころ、メッセージをしても相手は椅子だけという時もありました。友達が、「スコット、日本での働きはむなしだよ。宣教師の墓場だ。もう引き上げて帰っておいで。」と言った時も、私は神様の約束を信じ続けました。成功するのに必要なのは、毎朝、「今日も約束を信じます」と確信を持ち続けていくことです。

3. 喜び迎える

■この「喜び迎える」というギリシャ語は、「抱く」という意味があります。時に私たちは主からの約束を抱く必要があるときもあります。原語にはもちろんこの日本語訳の「喜び迎える」というニュアンスも含まれています。私たちが本当に愛する人に会った時、抱きつくほど喜ぶことがありますね。それほどの感動をもって主の約束を喜び迎えましょう!毎日喜び迎えるのです。

4. 告白する

■ギリシャ語で「告白する(ホモロゲオ)」は、「同じ言葉を言う」という意味です。言葉にするとそこに力が放たれます。私たちの口には創造の力があります。神様ご自身、言葉によって創造の業をなされました。告白は大切です。では、誰に告白するのでしょうか。まず、神様にです。「お父様、あなたが私に、こうなりますと言わ

れたので、私も同じように言います。」と声に出して言います。私はこのような祈りをささげ、続けて言います。「私はイエス様の血潮によって聖められました。それゆえ王座に近づけます。私の願いはこれこれです。」そのように目をつぶって想像しながら祈ります。そうして天のお父様の顔を見上げると、喜んでおられるのがわかります。息子の願いに応えたいという表情です。そして、「イエス様のお名前によって祈ります。」と祈りを終えます。するとほっと安心します。その祈りや願いを成就させるのは私ではないからです。天のお父様がやったださるのです。私はただ、「ありがとう、お父さん。」と言うだけです。みなさん、信仰生活をもっとシンプルにやっ

ていきましょう。次に敵に告白します。「私はサタンに負けない」「イエス様の血潮によって私は勝利者です」「サタンの力はイエス様の十字架によって壊された」と。頭の中で考えるだけではなく、声に出して言う必要があります。状況に向かって告白します。これも聖書的です。山に向かって海に入れと言ったらそうなるのです。そして自分にも告白します。何度も何度もです。特にリーダーたちは周りの人からの励ましが少なくなりますから、自分で自分を励ます必要があります。私もよく自分に告白します。「スコット、神様があなたに言われたことは絶対に成ります。」と鏡の前で言います。そして他の人と共に告白することも大切です。一緒に祈り合っていくことです。それは大きな力になります。

■最後に二つの御言葉を見ましょう。「約束された方は真実な方ですから、私たちは動揺しないで、しっかりと希望を告白しようではありませんか。」(ヘブル10:23)みなさん、告白していきましょう。神様は忠実なお方ですから絶対に成し遂げてくださいます。

「ですから、あなたがたの確信を投げ捨ててはなりません。それは大きな報いをもたらすものなのです。あなたがたが神のみこころを行なって、約束のものを手に入れるために必要なのは忍耐です。」(ヘブル10:35-36)

■私たちは忍耐が苦手ですが、とても大事です。というのは、「確信を投げ捨ててはなりません。」と聖書が言っているからです。多くのリーダーが確信や約束を捨ててしまいます。その原因は、告白していないから、そして一人ぼっちになってしまうからです。そうすると、どんどん確信がなくなってしまいます。ですから、私たち自身、弱くならないように気をつけなければなりません。私たちは弱くならないための努力が必要です。このヘブル10章では、日々一緒に集まり励まし合いなさいと言っています。そうでなければどんどん自信がなくなってしまいます。励ましてくれる人と連絡をとりましょう。どんな人でも励ましが必要です。否定的なことを言う人には連絡しないほうがいいですね。「あきらめないで」「がまんして」「なんとかなるよ」と言って祈ってくれる人と連絡をとりましょう。そのようにして自信や確信を守り続けるのは私たちの責任です。これさえあれば私たちが主の約束から離れることはありません。聖書に出てくる彼らは約束の成就を見ませんでした。告白し続けました。私たちは生きている間に約束の成就を見たいですね。ともに励まし合い、祈り、告白していきましょう!